

レ
ダ
ー

新型コロナウイルスによる死者数が2万人を超える中、全国でも飛びぬけて多いのが大阪府。12日のTBS系「報道特集」は、「第6波・大阪はなぜ死者数多い?」と迫りました。

番組は、コロナによる死者が人口100万人あたり21.4人と全国でもっと多く、高齢者施設で「クラスター」(感染叢団)が相次ぎ、10日以上たっても治療が受けられないなどの実態を紹介。「背景には何があるのだろうか」と、国の地域医療構想で公立・公的病院の病床削減が進め

られ、大阪維新府政もそれに追隨してきたことを明らかにします。

「病床の削減は、府議会でも取り上げられた」として昨年11月、日本共産党的石川多枝府議の質問を紹介。大阪府が昨年度、コロナ病床にも使われる急性期病床を229床も削減したこと、「いったん立ち止まってやめるべきだ」との通りに、吉村洋文知事は「地域医療構想は引き続き推進していく必要がある」。府民の命を守ることに力を向けた冷たい姿勢が浮き彫りになりました。

20年前、府内に61カ所あった保健所は3分の1以下の18カ所となり、常勤する保健師数は人口10万人あたりで全國3番目に少なく、人口約277

0万人の大都市には一つの保健所しかない…。

大阪府職労の小松康則委員

長は、「保健所の少なさが今 の深刻な事態になった。救われなくてはいけない命が救えないのでやりきれないという声がたくさん寄せられています」と語りました。現役保健師も「ずっと2年の間、(コロナの)波のたびごとに、時間外労働が長くなっています」。番組は「弱者の方にしわ寄せがいっている」と指摘しました。

吉村洋文知事のぶら下がり会見を垂れ流すだけのメディアが自立つ中、自民党以上に福祉切り捨てを実行してきた維新政治の実態を暴いた出色の報道でした。

(藤沢忠明)